

印旛郡市文化財センター 2004『印旛の原始・古代-旧石器時代編』と国立科学博物館編 2016『世界遺産ラスコー展』をもとに作成

~日本最大級の環状ブロック群~

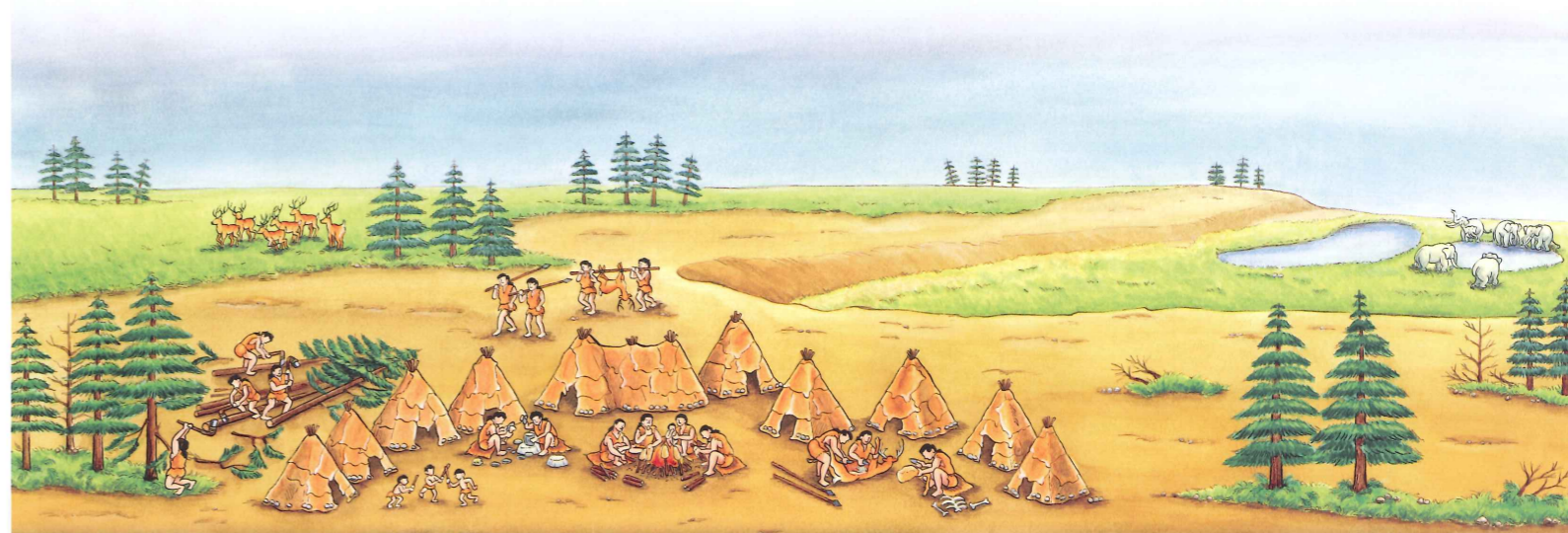
墨古沢南I遺跡

日本人のふるさと 千葉県印旛郡酒々井町の旧石器時代

墨古沢南I遺跡の時代、後期旧石器時代前半期

墨古沢南I遺跡は今から3万4000年前、後期旧石器時代前半期の遺跡です。この時代は、気候が寒冷化に向かい年ごとに大きく変動していました。海拔は現在よりも約80m低く、本州、九州、四国は地続きになり一つの島を形成していましたが、この島は大陸や北海道とは海で隔てられていました。

そして、この時代こそ、私たちの祖先ホモ・サピエンスが海を越え日本列島に到来・定着した時代なのです。ホモ・サピエンスは約20万年前にアフリカで誕生し、6万年前にアフリカから世界中へ拡散を開始します。約4万5000年前にはヨーロッパや中央アジア・オーストラリアへ到達し、約3万8000年前に朝鮮半島から日本列島へ到来しました。墨古沢南I遺跡は、ホモ・サピエンスがいかにして日本列島に定着したかを知るために、非常に重要な遺跡です。



◆ お問い合わせ先
 酒々井町教育委員会 生涯学習課
 〒285-0922
 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1
 TEL.043-496-5334 (直)

◆ 発行/酒々井町
<http://www.town.shisui.chiba.jp/>



墨古沢南 I 遺跡とは

墨古沢南I遺跡は今から3万4000年前の後期旧石器時代前半期に属する遺跡です。この遺跡は、「石器ブロック」と呼ばれる石器の分布が集中する場所が、円環状に配置された「環状ブロック群」と呼ばれるもので、円環部の大きさが南北67m、東西60m、4383点の石器を発見し、未発掘の石器を含めた総数は1万点に迫ると予測される日本最大級の規模を誇ります。図の灰色の丸で示した石器は発掘によりすべて取り上げ、現地に残っていませんが、北側および東側で見つかった赤丸で示した石器はすべて現地に発見時のまま残されており、遺跡の6割強が保存されています。



平成27年度調査航空写真

石器ブロック

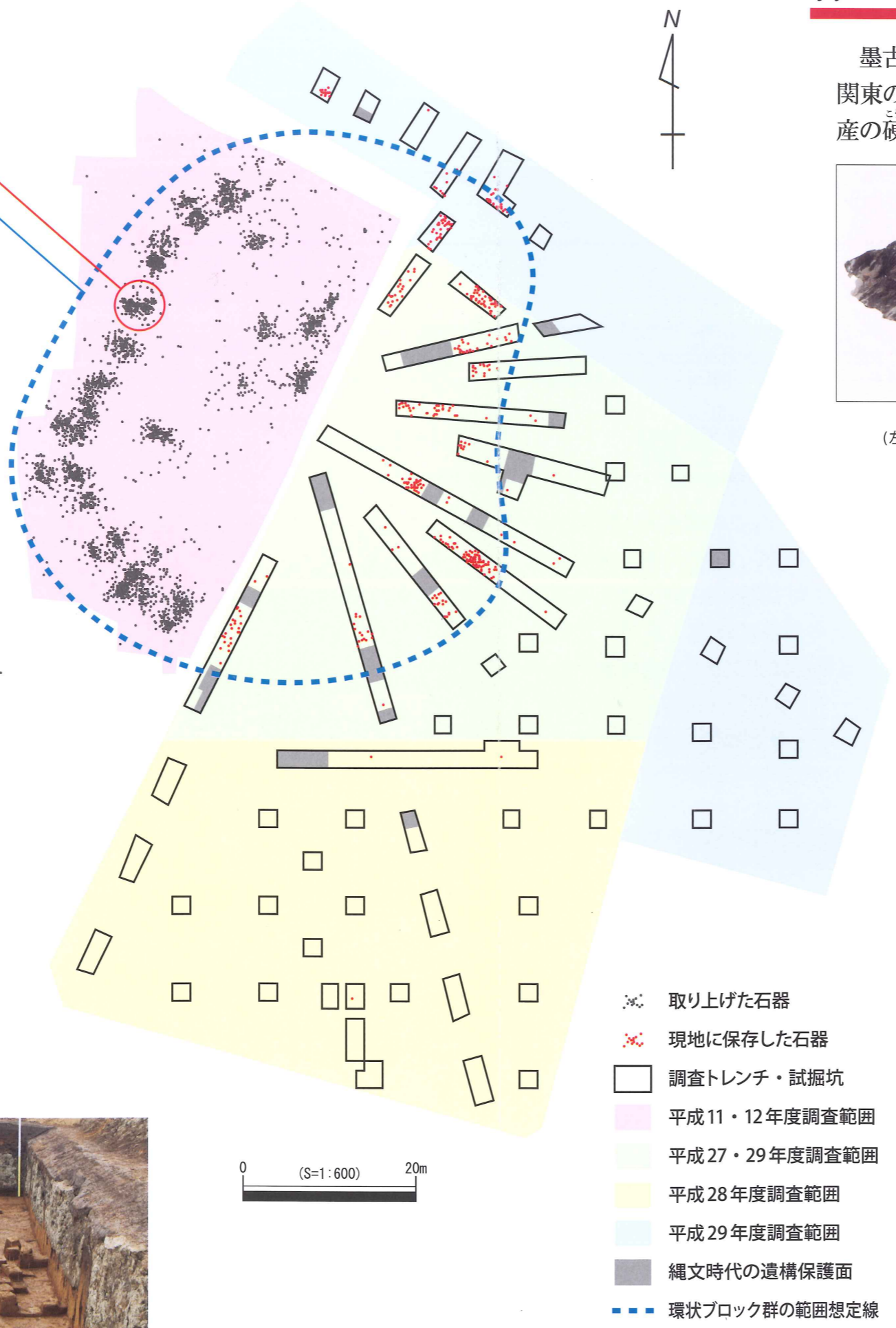
石器ブロックは旧石器時代の人々の生活の痕跡です。墨古沢南I遺跡では約60ヶ所発見されています。



平成27年度調査検出石器ブロック

平成29年度調査検出石器ブロック

※発見された石器は土のタワーの上に残っています。



- 取り上げた石器
- 現地に保存した石器
- 調査トレンチ・試掘坑
- 平成11・12年度調査範囲
- 平成27・29年度調査範囲
- 平成28年度調査範囲
- 平成29年度調査範囲
- 縄文時代の遺構保護面
- 環状ブロック群の範囲想定線

墨古沢南 I 遺跡発見石器分布図

様々な地域からもたらされた石材

墨古沢南I遺跡では広範囲の地域から集まってきた人々により、北関東のガラス質黒色安山岩、信州・神津島・栃木県産の黒曜石、東北産の硬質頁岩など様々な地域の石材が持ち込まれています。



墨古沢南I遺跡出土 黒曜石
(左：信州産・中：神津島産・右：栃木県産)



墨古沢南I遺跡出土 硬質頁岩

石器の接合

墨古沢南I遺跡では石器の接合が多く見られ、人々が石材を共有し、石器と一緒に作るなど同時期に共同生活していたことを物語ります。



※ガラス質黒色安山岩
石器の接合(墨古沢南I遺跡出土)

狩人の道具

墨古沢南I遺跡からは、槍の先に使ったナイフ形石器や台形様石器、毛皮などを加工するための削器や石錐など、遊動生活を営む狩人の道具が発掘されました。



墨古沢南I遺跡出土 台形様石器



墨古沢南I遺跡出土 石錐